

コッホ現象疑い時の対応

BCG接種時

1. 保護者に対してコッホ現象の説明を行う
2. 接種部位の観察とコッホ現象疑い時の連絡を指示

保護者からコッホ現象疑いの連絡

1. 発赤・硬結・膿の有無を確認
2. 結核患者との接触の有無を確認
3. (必要に応じて)来院にてBCG接種部を確認

Grade 4※ 以上
または
結核患者との
接触歴有

Grade 3※
(要注意)

Grade 2※以下

経過観察を行う(数日程度)
毎日写真を撮影するように指示

Grade 3※以上

軽減・消退

コッホ現象である可能性が高い
できるだけ早く、専門医療機関等
へ紹介する

ツベルクリン反応検査はBCG接種後
14日以内(7日以内が望ましい)に行う
必要があるため

コッホ現象である可能性は低い

1. 通常反応が出現するか経過観察
2. 必要に応じて、専門医療機関等への紹介を考慮

※「コッホ現象への対応」について

平成19年度 厚生労働科学研究「結核菌に関する研究」
分担研究「小児結核の予防方策および診療システムの確立」班

https://jata.or.jp/rit/rj/bcg_nagai_2_21.12.18.pdf

https://jata.or.jp/rit/rj/bcg_nagai_21.12.18.pdf

判断や対応に苦慮した際には、保健センターや小児科専門医等に相談する。